

名古屋大学高大接続研究センター「レクチャーシリーズ」

答えは目の前の学生から

～アサーティブプログラム・アサーティブ入試～

【アサーティブの意味】

相手の意見に耳を傾けながら、自分の意見や考えを表現することができる態度
すなわち自分を知ることが大切になると解釈

追手門学院大学 アサーティブ課

アサーティブオフィサー

志村 知美

Tomomi.Shimura.py@otemon.ac.jp

自己紹介

志村 知美と申します。



2013年1月より
追手門学院大学の職員です。

アサーティブオフィサーと名乗ってます。

愛知県出身です。

大学では中国語を学びました。

2015年4月より
アサーティブ研究センター研究員も。

雇用形態は様々ですが、
4つの大学を経験しました。

修士論文のテーマは、
「育てるAO入試の可能性」です。

今年の4月から大学院生になりました。

博士論文のテーマは、
「学生の成長支援と大学経営（仮）」です。

将来の夢は「寮母さん」です。

2. 入試改革の始まり



なんとなく	ツチノコ?	期待なし
不本意	学位を買う?	三者面談



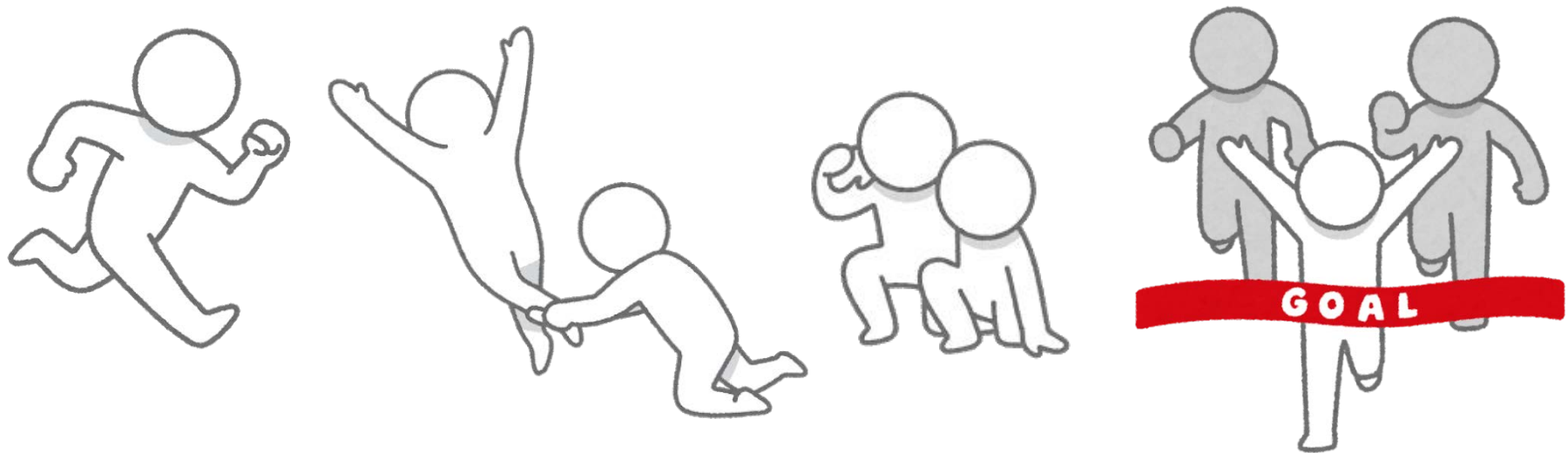
この気持ちを変えなければ、大学での学びの姿勢は変わらないのでは？



2-1. 入試改革の目的

<この大学に入学してよかったと思う学生を増やしたい>

◆2013年4月から制度設計の本格始動



高大接続改革答申
【学力の3要素】
2014年12月

2014年4月スタート

2-2. 追手門学院大学の入試改革

【アサーティブプログラム・アサーティブ入試の目的】

- ◆ 第一志望の入学者を増やしたい

【受験生像の設定】

- ◆ 追手門学院大学で学びたいという気持ちを描き、その思いを伝えられる人
- ◆ 今は確かな希望や理念がなくとも、知的な事柄への興味や活動を通じ、何のために学ぶのかを問い続け、努力する人
- ◆ 高校までの基礎的な知識や技能の習得を見直し、向上しようと努力する人

【期待する効果】

- ◆ シラバスの活用ができる
- ◆ 講義への参加意欲の向上
- ◆ 各種活動への積極的参加

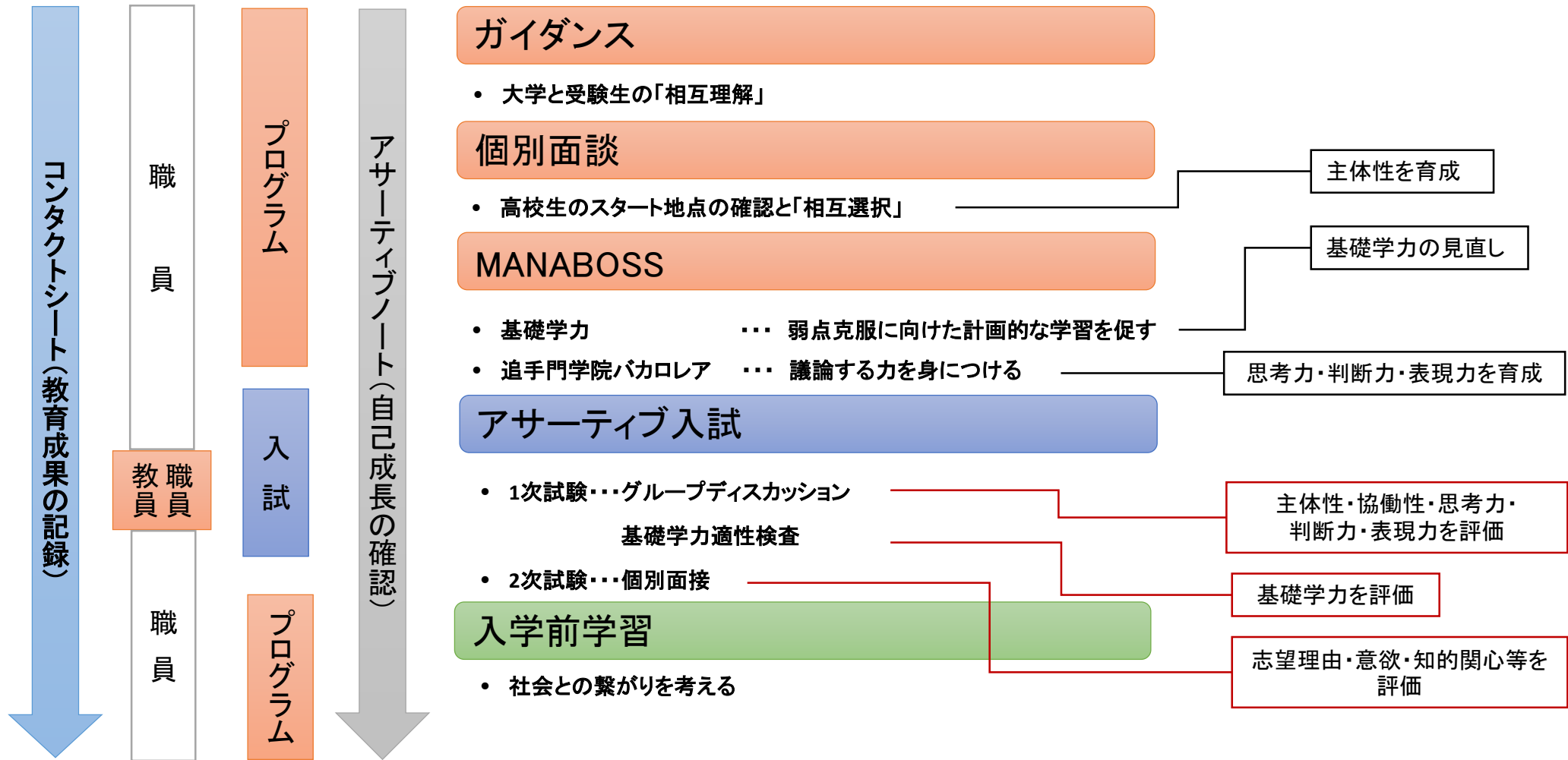


平成26年度大学教育再生加速プログラム テーマⅢ「入試改革」に採択

選定された大学は3大学
・追手門学院大学
・お茶の水女子大学
・岡山大学

平成29年度
中間評価で最高評価
「S」を頂きました。

アサーティブプログラム・アサーティブ入試の概要



2-3. アサーティブプログラム (3つの柱)

1. ガイダンスと本学職員との「個別面談」

オープンキャンパスも含めて年10数回のガイダンスとその際の個別面談。本学の専任職員が担当。自分を知り、大学で何を学びたいかを問い、自ら気づくように促す。この面談は、本学への受験を促すことはせず、本人の将来を一緒に考えるというスタンスで行っている。



2. 本学独自開発のシステム

基礎学力の確認と向上、計画的学習を習慣づけると同時に、追手門学院大学バカロレアで、多様な観点から考察する力を育て、自分の意見を述べる力や他者の意見を受容する姿勢を養おうとするシステム。

『MANABOSS (マナボス)』 <https://www.manaboss.com/>

3. 自己成長を促す「アサーティブノート」

このプログラムの結果を記録し、振り返ることで自己成長を促す。自分自身を主語にして記述する。

2-4. アサーティブ入試

<アサーティブプログラムの力を発揮する場所として設計>

◆ 1次試験（グループディスカッションと基礎学力適性検査）

- ・グループディスカッションは、1グループ5～6名で約30分の議論。
- ・主体性や協調性、論理性等を評価して合否を判定（職員2名による判定）。
- ・基礎学力適性検査は、60分40問（国語と数学）。
- ・それぞれが一定水準以上かどうか総合的に評価して合否を判定。

◆ 2次試験（個別面接）

- ・教員と職員がペアとなり、志望理由や学問に対する意欲や知的関心のレベル等を評価し判定。

2-5. アサーティブ入試結果

2018年10月29日現在

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
面談者総数 (1～3年生)	実人数	190人	557人	751人	772人	956人
	リピーター(延人数)	31人	153人	155人	206人	191人
	延人数	221人	710人	906人	978人	1147人
アサーティブ入試募集人員		60人	111人	216人	230人	200人
出願者	A日程	91人	203人	261人	270人	414人
	B日程	—	87人	134人	113人	
合計		91人	290人	395人	383人	
1次合格者	A日程	80人	188人	144人	161人	100名
	B日程	—	72人	69人	69人	
合計		80人	260人	213人	230人	
2次合格者	A日程	53人	89人	130人	137人	85名
	B日程	—	41人	60人	60人	
入学者		53人	130人	190人	197人	

3. 入試改革からの展開

➤ 滋賀県教育委員会との連携協定（5つの連携校） 2016年4月～

それぞれの高校の状況に合わせてカスタマイズ

例：MANABOSSの一斉利用

進学相談会にご指名参加

P T A 総会や保護者説明会での講演会

保護者のための「初めての大学」

高大接続プログラム「自分のモノサシを持つ」「大学仮説検証プログラム」

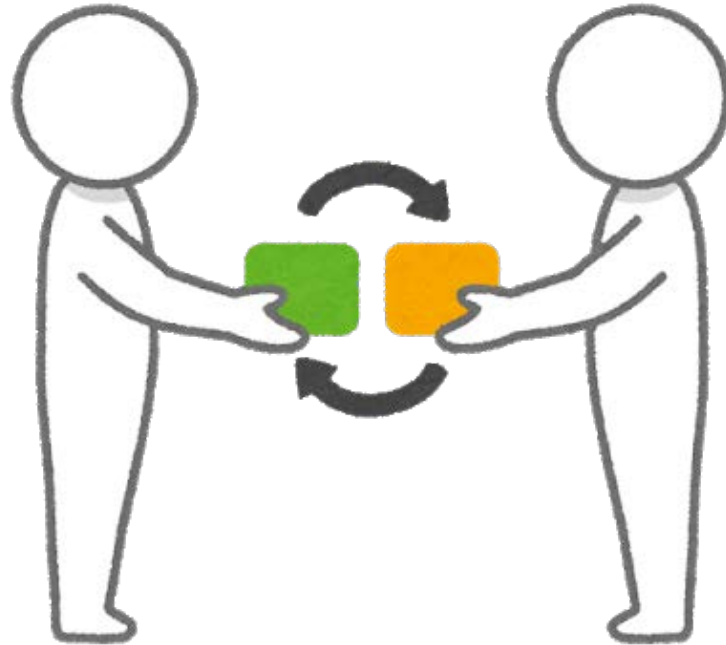


岡山県(1校)、高知県(1校)、沖縄県(13校)、長野県(1校)、岐阜県(1校)、

京都府(1校)、大阪府(5校)、兵庫県(3校)、栃木県(1校)、北海道(1校) ※予定含む

3-1. 高大接続のための高大連携の効果

- キャリア教育の考え方の変容
- 単なる大学合格でいいわけではない
- 高校と大学で生徒を挟んで育てる
- 役割分担？



3-2.学内での効果

➤ S D 【Staff Development（職員の能力開発）】の効果

➤ 教育改革との連動

エンロールメントマネジメントの視点と具体化に向けて

➤ アサーティブ研究センターの研究

「学びと成長の可視化」

ベネッセ教育総合研究所との協同研究（2016年4月～2018年3月）



4. 学びと成長の可視化の目的

<可視化の目的>

- ①アサーティブプログラム・アサーティブ入試で想定した入学者像の可視化
- ②アサーティブ入試入学者の学びと成長の可視化

アサーティブプログラム

- ①自分とお話なさい（自己省察力）
- ②他の進路や可能性を模索なさい（探索力）
- ③大学合格がゴールではなく、人生の歩み方を考えなさい（計画力）

進学モチベーションの形成が必要

Self-direction
&
Challenge
【納得した受験】

【アサーティブ入試入学者像】

- ・ シラバスの活用ができる学生
- ・ 講義への参加意欲の向上
- ・ 各種活動への積極的参加

4-1.アサーティブ生の成長と課題

- 第一志望入学が多い → 入学後の失望感の懸念
- 進路意識・行動が高い → 「就職」が意識されている → 大学で学ぶ価値が高い
- 学生生活の不安 < 学力の不安
- 基礎学力向上の課題 ⇔ 高校時代の学習習慣の大切さ

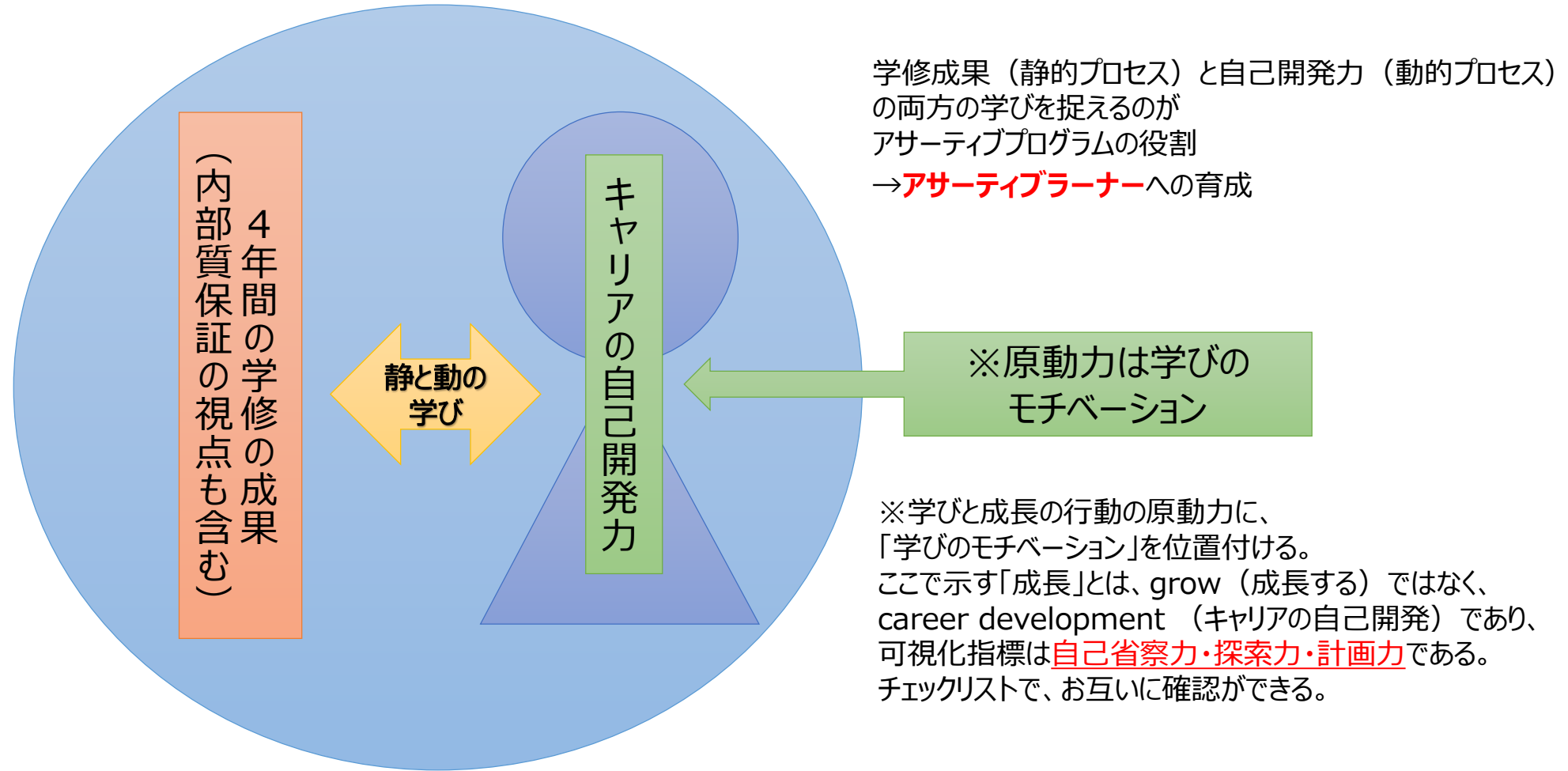
なのに？ 読書量と自習時間は増加



教育改革との連動

学びと成長の可視化に関する探索的仮説

キャリア開発理論の視点から捉える



今回の共同研究から見たこと

学内には、入学後の評価がG P Aや修得単位などの静的な指標しかない。

アサーティブ入試の評価軸とのズレを実感。

→ 2軸の評価と成長支援の方法論のため次年度も継続して外部アセスメントを活用（対象者を拡大）



学力（静的）と成長（動的）の情報を集約し、1人ひとりにあった適切な成長支援のために、

学生カルテ（大学側）が必要であり、自己の実績証明と振り返りのポートフォリオ（学生側）として活用できるようなシステムを構築中。

最後に

アサーティブオフィサーの定義→ 設計・運営・実施・判定まで携わる人

- ◆進学モチベーションを育てる（受験生の心構え）
- ◆高校生と大学の信頼関係を構築する支援（諦めさせない環境作り）
- ◆入学後の安全基地となる存在（入れたら終わりではない）
- ◆1人で大きくなったと思わせる匙加減
- ◆学生の成長支援とその制度設計を提起

ご清聴ありがとうございました。